

立命館大学人文科学研究所重点プロジェクト（グローバル化と地域の多様性）

立命館大学人文科学研究所：批判的社会科学研究の最前線⑭

シリーズ「批判的実在論の基礎と応用④」

「批判的実在論の研究への応用と 課題：介護離職に焦点を当てた 博士課程論文を通して」

オンライン研究会



Zoomミーティングになります

参加無料、途中入退室自由

登壇者 SPEAKERS

荒居 康子

（聖路加国際大学博士後期課程修了）

司会 HOST

加藤 雅俊（立命館大学教授）

MKATO@FC.RITSUMEI.AC.JP

日時 DATE AND TIME

2026年 10/31(土)

14:00～16:00



10月29日（木）23:59までに
申し込みください。
参加希望者に前日まで
ご連絡します

訪問看護師としての経験から在宅介護への理解を深めるため、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の提唱者である故・木下康仁氏のもとで博士課程に進学。博士論文「日本で高齢の親を介護する単身同居の実子が離職し介護を続けるのはなぜか―批判的実在論を通して―」では、介護離職の生起メカニズムに関する仮説生成を目指しました。分析には批判的実在論をメタ理論としたM-GTAを用い、15名への半構造化面接を実施。批判的実在論は、木下氏が検討していた「3つのドメイン」の概念を応用した問いの生成、対象選択、M-GTA結果を用いたメカニズムの分析方法として用いました。

本研究会では、この研究実践を踏まえ、批判的実在論を質的研究に用いることの可能性と課題について考察を深めます。